

● 5 これからの室蘭

● (1) 変わる室蘭

● 室蘭市は、工業都市としてさかえ、1969
● (昭和 44) 年には人口が 18 万人になった
● ことがあります。

● そのころの富士鉄 (今の新日鉄) の溶
● け^ろ炉は、4 基^きとも使用されていましたが、平成 3 年には 1 基だけになりました。

● 働く人の中には、他の都市へうつって
● 行く人もおり、今では室蘭市の人口は 10
● 万人になってしまいました。

● だんだんと人口が減^へり、室蘭市はしだ
● いにさびしくなってきました。そこで、北
● 海道や室蘭市では、活気のある町にする
● ため、さまざまな努力をしています。

● 昭和 62 年には、新しい工場用地をつく
● り、工場がきてくれるようにはたらきか
● け^{かがわ}しました。香川工業団地には、こうして
● 進出した工場がたくさんあり、コン
● ピュータや時計などのせいみつな部品を
● つくっています。

● また、1998 (平成 10) 年には白鳥大橋
● が完成し、道央自動車道とも結ばれまし
● た。交通がいちだんと便利になり、港を
● 一周できるサークル都市としての新しい
● 室蘭の姿ができあがりました。

● さらに、静岡県^{じょうえつ}の静岡市 (旧清水市)
● 新潟県^{にっしょう}の上越市、アメリカのノックスビ
● ル市^{ひらら}に加え、中国^{しんしょう}の日照市、沖縄県^{しんしょう}の平良
● 市の 5 つの市と姉妹都市^{しまいとし}の関係をもち、物



香川工業団地



姉妹都市の締結

産、スポーツ、文化などさまざまな交流事業も進められています。

私たちの室蘭市は、これまでずっと「ものづくりのまち」として発展してきましたが、これからは自然環境^{かんきょう}を大切に守って生産を進める、人間にやさしい産業都市^{さんぎょう}をめざしています。

この章では、室蘭の歴史について学んできましたが、21世紀に生きる私たちにとって、これまでのふるさと^{ふるさと}の歩みをふりかえってみることは、とても大切なことです。いま住んでいる室蘭^{むろらん}を築いた人々の苦労だけでなく、何を求め、何を希望し、何を願ってきたか、人々の夢を知ることができるからです。

私たちもまた、そうした先人^{せんじん}の夢を引きつぎ、もっともっとみんなが共に幸せになれるよう、自分たちの手で、私たちの室蘭をつくっていきたいと思います。



郷土への思いが詰まったいろいろなパンフレット